

世になりての後、人の名の由緒をもえらで、おのが事好にまかせて、杜撰につきし也源は杜撰なれど、三百年來、世あまねくつく事なれば、今においては子細なし、

〔年山紀聞〕市人稱官名

本朝にても、末の世には、治工筆工のたぐひまでも、官名を稱する事になりぬ、もろこしも同じ事なり、陸容菽園雜記曰、吏人稱外郎者、古有中郎外郎、皆臺省官故僭擬以尊之、今人稱郎中、鑄工稱待詔、磨工稱博士、師巫稱太保、茶酒稱院使、皆然、此艸率名分不明之舊習也、國初有禁、

〔松の落葉〕何右衛門何左衛門といふ事

今の世の人のあざなに、何右衛門なに左衛門といふ事のよしを考るに、こはみかごにて左衛門右衛門などのあまたありて、まぎらはしきを、平氏の右衛門をば平右衛門、藤原氏にて内舍人かけたる左衛門をば、藤内左衛門などいひてよびつるにて、左衛門右衛門はもと官なれど、かくつらねて字のやうにいひなしたるがはじめにて、のちくはえもざまにて、その官ならぬ人にもいへるなり、甲陽軍鑑に、そもく男が四五十にあまり、赤口關左衛門、寺川四郎右衛門など、官途受領まで仕る侍が云々といへり、赤口寺川は今名字といふものにて、それをもつらねいふさま今の世と同じ、たゞし官途受領といへるをみれば、朝廷に申てなり、わたくしにものせるにはあらずか、れば今の世のならひにえたがふとても、むげにいやしきものつくる民、あき人などのあざなには、こゝろしてつくまじき事なりかし、

〔日本書紀〕應神四十年正月甲子、任大山守命、令掌山川林野、

〔古事記〕應神於是天皇問大山守命、與大雀命詔、中略大山守命、爲山海之政、大雀命、執食國之政、以白賜、

〔古事記傳〕三十三此職は、下文に、此之御世、定賜海部山部山守部と見え、書紀にも五年秋八月、令